

ICTを利活用した協働教育推進のための研究会(2010.6.1)

今年度のポイントは、どの学校でも、すべての教師・児童が、ICTを負担なく、持続可能な活用を行うための環境整備を実現することではないか。

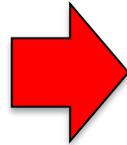




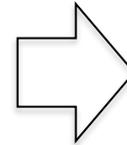
検証の視点

- 教師・児童全員が活用できるか
(操作性、支援、個人特性等)
- 日常的・持続可能な活用が実現するか
(手間、負担、定着しやすい活用等)
- (負担のない)研修、導入カリキュラム等の必要性、内容の検討
- これまで、ICT環境整備が進んでいない地域、学校においても適用可能であるか

活用



持続可能な
ICT活用の
ための
条件整備



効果
(学力向上)

検証の視点

- ICT活用を持続可能にするために何を变える必要があるのか(教師、学習集団、授業スタイル、カリキュラム、意識等)
- 学校、家庭間連携による学習の在り方とそれに対応したシステムの検討
- 学習評価の在り方と評価情報の活用方法について検討
- 協働教育実現のための導入カリキュラム(特設の時間を設定することも検討)



検証の視点

- 教科カリキュラムに協働教育を埋め込むことの可能性を検討

※特設の時間が必要な場合にはそのカリキュラムの開発

- 現段階で測っている学力の変容について分析(個人特性との関連)
- 新たな学力観に基づく学力の定義、測定手法の開発とそれに基づいた学力の測定
- テクノロジーの進化に対応した学習環境の再構築

情報化の先進事例等の実態調査に関わる参考資料 「英国の教育の情報化に関する主な施策」

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
1. リーダシップ とマネジメント 5. 職能開発		40万人以上の教員等を対象とした ICT教育に関する e-Learningを中心とした研修 (NOFプログラム)				管理職向け戦略的ICT研修 (SLICTプログラム)の実施				
7. リソース	教育用デジタルコンテンツの収集・開発(NGFL)							ナショナルカリキュラムに対 応したコンテンツのデー タベース(Curriculum Online)		
2. カリキュラム 3. 学習と指導			教科ICT を必修化			標準指導計画 (Scheme of Work) の策定		各教科のICT活用 必須場面を定める (Statutory Requirement)		
8. 生徒の成績 への影響		ICT活用による学力向上の成果を明ら かにした研究プロジェクト(Impact2)				社会的に恵まれない地域において ICT活用が学力向上に寄与することを 明らかにしたTest Bedプロジェクト				

※国の教育制度、教育観、授
業スタイル等の違いを踏まえ
た分析が必要

野中陽一, 堀田龍也, Avril Loveless(2008)
英国における学力向上のためのICT環境整備の分析
日本教育工学会論文誌, Vol.32, No.3, 315～322

要望

- 実証フィールドの視察(授業参観)、関係者(学校、教育委員会、支援員等)へのヒアリングとそれに基づくディスカッション
- 公開授業に対する参観者の評価情報の収集と分析
- 協働教育に関わる研究者、実践者等からのヒアリング
- 成功事例のみを対象に拙速な評価を行わず、すべての小学校への普及、持続可能な条件整備に関わる知見を抽出することに力点をおく